

原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 長期継続地殻大型地震推定前兆 続報 現況報告

※本HPは、八ヶ岳南麓天文台ではなく公開実験参加の方が好意で作成して下さっています。HP作成管理者の方の出張の都合で10/7夜~10/12迄の期間、情報内容の更新が不可能とのことです。観測は続けておりますので、E-mailとFAXで配信しております実験観測情報では日々報告できますが、HPは10/13以降でないとう更新ができない状況とのことです。どうかご理解下さい。(串田)

右図は2008年07月より出現しだし、過去例の無い7年3ヶ月と云う長期に渡って前兆が継続しているNo.1778前兆の全体像です。●=極大 一=関連前兆出現期間を示します。

現在迄に8ステージに別れ前兆群が出現。各ステージが示した時期が次ステージの初現や極大となってきました。但し前兆終息が認められない限り発生は推定されません。今迄ステージに移行する際、前兆が終息せず、継続したため、現在迄の間に発生日を確定したことはありません。

現在は一番右端上にあたるステージ8を進行中認識です。

右図は、ステージ8の詳細前兆出現状況です。ステージ7が示した時期=8/14にS型特異状態が複数観測装置に出現し、極大となりました。

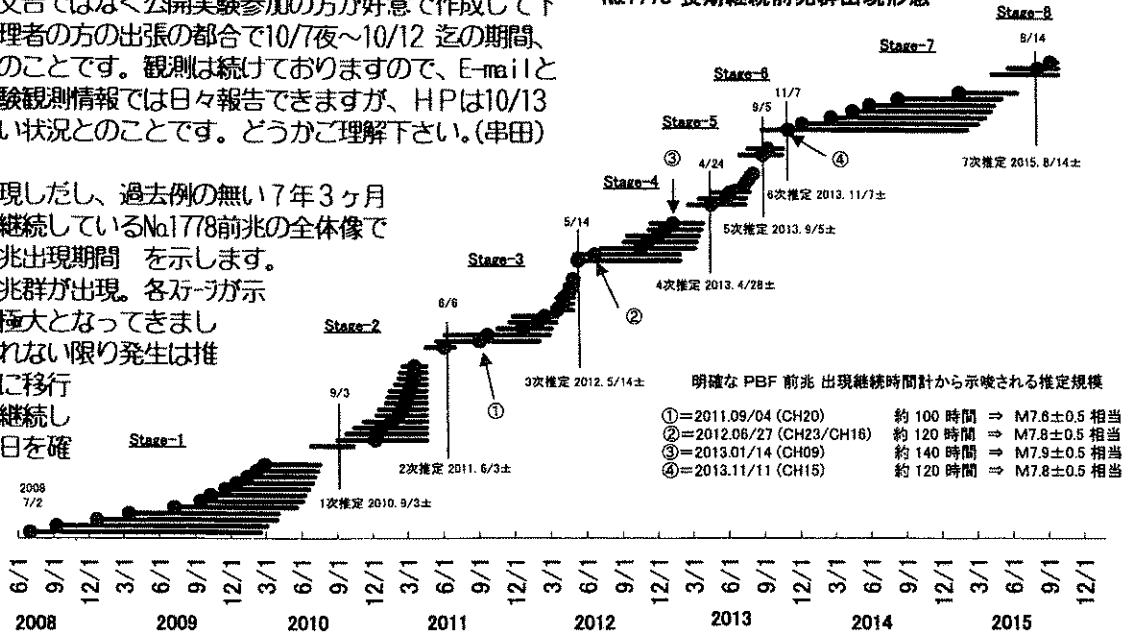
また9/17に火山帯近傍地殻地震前兆と連続PF(PBF)が極大を作った前兆群が出現していますが、現在、この前兆群もNo.1778と同じ領域が示唆される為、No.1778前兆の別形態前兆認識として、右図に入れてあります。

8/14の極大はS型特異であり、関連継続出現前兆が直接波近似変動であることから、通常の地震前兆時間変化経験則のTfap:Tmap=20:13は使用できない可能性が高く、特異や直接波近似変動の場合に認められた、Tfap:Tmap=2:1を使用して発生時期を求めようとしています。

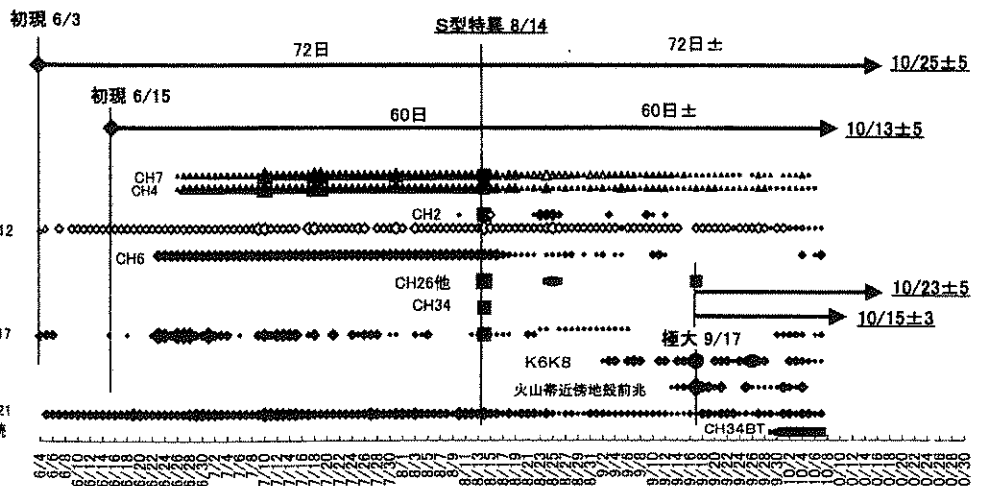
現在CH07の直接波近似変動はほぼ終息。新たにCH34にBT。現状からは10月15日±の可能性は低い見解。10月13日時点で前兆が顕著に継続していた場合は、可能性①の10月15日±2 発生の可能性は否定できます。10月13日夜に更新が可能でしたら、13日時点での状況をHP作成者の方に送り、更新アップをお願いしたいと思います。

※他に関東直下、東海、東南海、南海等の巨大地震が推定される前兆は観測されておりません。

No.1778 長期継続前兆群出現形態



明確な PBF 前兆 出現継続時間計から示唆される推定規模
①=2011.09/04 (CH20) 約 100 時間 => M7.6±0.5 相当
②=2012.06/27 (CH23/CH18) 約 120 時間 => M7.8±0.5 相当
③=2013.01/14 (CH09) 約 140 時間 => M7.9±0.5 相当
④=2013.11/11 (CH15) 約 120 時間 => M7.8±0.5 相当



◆推定領域：右図 太線内領域=大枠推定領域 斜線域=可能性が考え易い参考推定領域

◆推定規模：M7.8 ± 0.5 (火山帯近傍地殻地震前兆が別の場合は、No.1778とは別地震活動としてM6.6 ± 0.5の可能性有)

◆推定時期：(10/7現在状況からは10/15±の可能性低い見解) 可能性① 10月15日±2 [10月11日±前兆終息が条件] 可能性② 10月25日±3 [10月中旬以降に前兆終息が条件] (※10月21日を過ぎても前兆継続の場合は11月の可能性有)

◇推定地震種：震源浅い(数km~20km±) 日本列島地殻地震 ◇推定発生時刻：午前9時±1時間 又は 夕刻6時±2時間

